

－ 春日部市立江戸川小中学校（義務教育学校）視察報告 －

令和4年5月10日(火)に、教育委員会事務局職員8名で、春日部市立江戸川小中学校（義務教育学校）を訪問し、小中一貫教育について研究してまいりました。

そこで、江戸川小中学校について紹介いたします。

視察日 令和4年5月10日（火）午前10時～11時30分  
視察場所 春日部市立江戸川小中学校（義務教育学校）  
春日部市上吉妻1（旧庄和町地内）

（開校までの経緯）

春日部市教育委員会では、平成28年度に、市域のうち旧庄和町北部地域（※1）における学校再編計画を策定しました。そして、この計画に基づき、令和元年度に、当該地域内に存する宝珠花小学校、富多小学校の2つの小学校を統合し、同地域内に存する江戸川中学校敷地内に統合した小学校を設置する（※2）ことによって、県内初の義務教育学校「江戸川小中学校」を開校しました。

なお、この学校は市教委から小規模特認校の指定も受けており、旧宝珠花小学校区、旧富多小学校区、旧江戸川中学校区以外の地域からも希望する者は、通学できることとなっています。

※1 このエリアは、江戸川中流域にあたり、見渡す限りの田園地帯の中に学校があります。学校から車で西へ5分程度進むと、新国道4号線に突き当たります。この近辺の国道沿いではあまり開発が進んでいる様子は見られませんが、国道をさらに北方面へ5分程度進んだ所には流通団地があります。また、学校から車で東に2～3分程度進むと、江戸川の堤防に突き当たります。江戸川を挟んだ東側は千葉県野田市にあたります。

※2 江戸川小中学校の開校に至るまでの整備の進め方は、当教委で計画している、つばさ南小・つばさ北小の統合による川島中学校地内での小中一貫教育校の整備方針とパターンに類似性が見られます。ただし、江戸川小中学校の令和4年度における児童・生徒数は204名、学級数は9学級であるのに対し、令和7年度の つばさ南・北小と川島中学校による小中一貫教育校における 児童・生徒予測数は419名、学級数16学級と、その規模はおおよそ半分程度です。

江戸川小中学校の存する地域性や学校の再編パターンに、当町と類似性が見られることと、また、規模に違いはあるものの、江戸川小中学校における小中一貫校化の整備内容が、当課で考える川島中学校の小中一貫校化の整備イメージに合致することから、参考とするため、事務局にて視察を行いました。

配置図 学校要覧から

部 活 動



陸上部



女子卓球部



男子ソフトテニス部



文化部

江戸川小中学校では、陸上部、女子卓球部、男子ソフトテニス部、文化部の4つの部活動があります。  
5・6年生は、希望により部活動に参加します。 ※5・6年生の活動参加は、スクールバスの出発時刻に合わせて終了

教室配置図



ふれあいコーナー



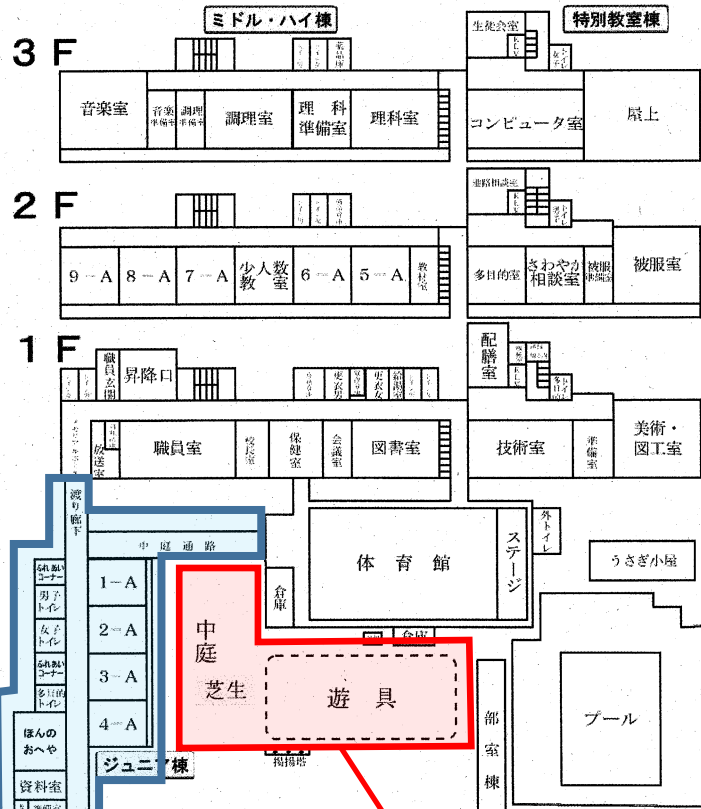
ほんのおへや



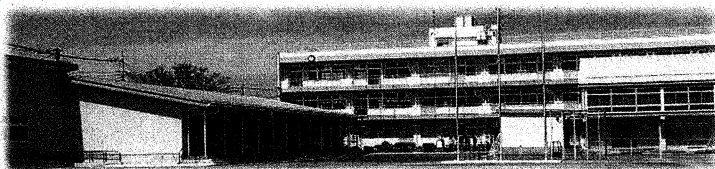
ランチルーム



芝生広場



外構工事(芝生・遊具設置)



増築(小学校校舎建設)



### 増築校舎（小学校 1～4 年教室棟）

教室は、すべて東側に窓が向いており、外側にはテラスが設けられています。テラスを通じ、教室から直接、屋外（中庭は芝生）に出ることができます。

なお、昇降口は、既存校舎にあります。

延床面積：805.08 m<sup>2</sup>

構造：軽量鉄骨造

階数：平屋建



### 職員室（中学校校舎内）

職員室は、小・中学校の教職員で共用しています。この学校は、中学校の中に、小学校の教職員が入ってきたわけですが、スペース的には既存の職員室でほぼ足りたそうです。ただし、一部、間取りを変更したそうです。



### 小学校の図書室（1～4 年教室棟内）

小学生 1 年生から 4 年生用の図書室を、増築校舎内に設置していました。（この部屋を「ほんのへや」と呼んでいます）

蔵書のほとんどは、統合前の小学校から移動したそうです。



### 小学校用遊具（中庭）

低学年児童用に、遊具が 5 基設置されていました。

鉄棒、ジャングルジム、ブランコ、雲梯、ハントウ棒

その他、教育活動に関しては、おもにつきのような取り組みをしていました。

### 〈9か年を見通した学習の積み重ね〉

5・6年生は教科担任制を実施。

### 〈英語教育の充実〉

早い段階から英語に親しませるために1・2年生に「英語タイム」を導入。

### 〈心を耕す異学年交流の推進〉

大運動会や持久走大会は、縦割り団活動を実施。音楽会も全学年参加で実施

### 〈スイミングスクールとの連携〉

小学校1～6年生の水泳学習はスイミングスクールに移動して実施。

### 〈小学校における中学校教員の乗り入れ授業〉

	国語	社会	算数	理科	音楽	家庭	体育	英語
小学校5年生	担	担	担	TT	◎	◎	TT	◎
小学校6年生	○	◎	TT	TT	◎	◎	TT	◎

担…学級担任(前期課程・小学校)

○…前期課程(小学校)教科担任

◎…後期課程(中学校)教科担任

TT…後期課程(中学校)教科担任と学級担任(前期課程・小学校)でのティームティーチング

なお詳細については、つぎのとおりです。

## 1 施設関係

### 1) 増築校舎（前期課程1～4年生が利用）

延床面積：805.08㎡、 構造：軽量鉄骨造、 階数：平屋建

箇所	説明
図書室	<p>前期課程（小学生）1年生から4年生用の図書室を、増築校舎内に設置しました。（この部屋を「ほんのへや」と呼んでいます）</p> <p>一方、前期課程5年生から6年生用の蔵書については、既存校舎（中学校校舎）の図書室に入れました。蔵書は統合前の小学校から移動した本が多いそうです。</p>
トイレ	<p>トイレには、オムツ台やオストメイトが設置されており、バリアフリー対応を図っていました。災害時にも利用しやすい設計になっているそうです。※ 和便器もありました。これは学習の一環だそうです。</p>
普通教室	<p>普通教室（4部屋）は、すべて東側に窓が向いており、外側にはテラスが設けられていました。テラスを通じ、教室から直接、屋外（中庭は芝生）に出ることができます。なお、昇降口は、既存校舎にあります。</p>

### 2) 既存中学校校舎（前期課程5～6年生、後期課程が利用）

箇所	説明
トイレ	<p>トイレは全面的に改修されており、特に大便器は洋式に更新したとのことです。職員用の便器は洗浄機付きでした。児童・生徒用の便器は洗浄機付きではありません。また、小学生（5～6年生）と中学生</p>

	とで、便器のサイズは変えておらず、すべて統一サイズとなっていました。
職員室	この学校では、小規模の小学校が2校統合して中学校に入ったわけですが、小学校の教職員が入ってきても、スペース的には既存の中学校教員用の職員室でほぼ足りたそうです。ただし、一部、間取りを変更したそうです。
保健室	小・中学校の養護教諭2名で、保健室1部屋を共用していました。
パソコン教室	GIGAスクール以降、児童生徒によるパソコンの使用がほぼ無くなりました。今は、教員がデータをプリンター出力する程度の利用頻度しかなくなっており、学校では、余裕教室もないことから、今後は、コンピュータを撤去し、この部屋の有効活用を図れないか模索しているそうです。なお、現在設置されているパソコンを、今後、更新する予定はないそうです。
図書室	前期課程（小学生）5年生から6年生の蔵書については、後期課程（中学生）の図書室に据え付けていました。前期課程（小学生）5～6年生と後期課程（中学生）で、図書室を共用していました。
理科室及び準備室	理科室は、前期課程（小学生）と後期課程（中学生）で共用していました。前期課程（小学生）の授業で使用する教材は、統合前の2校の小学校から移動しました。統合する1年前から必要な教材をリストアップするなどして、準備を進めたそうです。  教材を保管する準備室としては、スペースを拡張する関係から、元々、隣り合う部屋2部屋の壁を撤去し1部屋に改造していました。
階段	原則として、階段の段差（けあげ）の寸法の基準は、小学校と中学校で異なるが、小学生の体格等の変化に伴い、建築基準法が改正され、

	16cm以下から18cm以下に変更できるようになりました。ただし、この場合、手摺の設置は必要です。この学校では、元から階段に手摺が設置されていたので、対策工事はなかったそうです。
昇降口	スロープ化により段差を解消するなど、バリアフリー対応が取られていました。
その他 (メモリアル ルーム)	校長室を、旧小学校の歴史を展示するメモリアルルームに改造していました。また、この場所は、増築校舎への通路にもなっています。

### 3) 体育館

箇所	説明
体育室	小中一貫教育校化に伴う改造は特に施されていませんでしたが、バスケットゴールは落下防止の対策が施されていました。
体育倉庫	元々、中学校用の体育用具の収納スペースが狭かったことや、また、小学校から小学生用の体育用具を移動する必要があったことから、体育館の外側に、体育倉庫を新たに建築しました。  51.24㎡

### 4) 部室

箇所	説明
部室	既設の部室を解体し、別の場所に新設していました。



## 5) プール

箇所	説明
小学生の水泳授業	中学生用のプールの水深が深いことから、小学生の水泳授業は、市内のスイミングスクール（ルネサンス）に委託しているそうです。1・2年生、3・4年生、5・6年生の3つのグループに分け、バスを利用し片道20分程度移動しながら実施しています。このため水泳授業の実施には、時間割として2時間分が必要となるわけですが、温水プールの利用なので、1年を通して実施可能のため、特段、学校運営等に支障はないそうです。
プール	このようなことから、小学生に対応したプールの改造は行っていません。

## 6) 外構

箇所	説明
中庭 (芝生)	増築された小学校校舎の前には、芝生が植えられています。学校側からの説明によると、小学生の屋外活動は、この芝生のエリア内で行うそうです。よって、グラウンドでの中学生の部活動などとの接触は回避されているそうです。
遊具	小学生が入ってくることから、5基設置しました。 鉄棒、ジャングルジム、ブランコ、雲梯、ハントウ棒

## 7) その他施設

箇所	説明
家畜小屋	小学生が入ってくることから、新たに小動物（うさぎ）を飼うため

	の小屋を設置した。
--	-----------

## 2 通学関係

	説明
スクールバス	この学校は、市教委から小規模特認校の指定を受けていることから、事実上、春日部市内全域が通学区域になっています。統合前の旧宝珠花小学校区、旧富多小学校区の児童は、通学距離に関係なくすべてバスの利用対象とし、希望者のみバスを利用できます。それ以外の地区から通学する児童は、保護者の送迎によります。なお、中学生は自転車通学です。
保護者の送迎対策	児童を送迎する保護者の車が多数、校地内に乗り入れることから、グラウンドの縁に鉄板を敷き、スムーズに乗り入れできるよう対策を施していました。

## 3 教育活動関係

教職員の負担感について

Q：5・6年生の教科担任制において、後期課程（中学校）教員が前期課程（小学校）の一部教科を受け持っているが、授業時数増等の負担感はないのか？また、その分前期課程（小学校）教員は空き時間が増えるのか？

A：江戸川小中学校規模（学年単学級）では、後期課程（中学校）の教員が前期課程（小学校）の授業を受け持ったとしても週の授業時数は17時間程度なので、負担感はない。また、前期課程（小学校）の教員も後期課程（中学校）の教員と一緒に授業に入っている。従って、空き時間が増えるというより手厚い授業（指導体制）が確立されている。

Q：小学校と中学校では、学校文化も違うので、それぞれの職員の融和や協力体制を築くには教頭先生がかなり苦労しているのでは？

A：今年で4年目になるので、今は職員同士の協力体制も築け、問題は無いがのだが、はじめはどうしてもぎくしゃく感があり大変だったと聞いている。

Q：校務分掌は、前期課程（小学校）と後期課程（中学校）の教員をどのように配置しているのか？

A：基本的には、各教科・領域において前期課程（小学校）と後期課程（中学校）の教員が1名ずつ担当し、どちらかの教員が主任を務めている。

Q：5年生（希望者）からの部活動参加に関しては、前期課程（小学校）の教員も指導に関わっているのか？また、後期課程（中学校）の教員の負担増にはならないのか？

A：前期課程（小学校）の教員は関わっていない。また、5年生からと言っても希望者なのでそれほど人数が多くなるわけではないので、負担感には繋がらない。逆に5年間指導できることにもなるので規模の割には実績を上げていると思う。

- ・ 小中一貫教育に期待して着任する教師もいる。小中学生が活動しているため、教師が活躍できる場を整えてあげる必要がある。人事に関しては、小学校・中学校の免許を持っている教師を入れるようにしている。統合したことで、統合前の学校における経験年数がリセットされているため、長期（10年間等）にならないように注意をしている。
- ・ 中学校の先生が小学生の児童のために授業をする際、小学校の先生は中学校の先生にすべてまかせるのではなく、教室に足を運び授業を支援している。職員会議等は小・中学校の先生と一緒にしている。